

委員会の今後の進め方及び前回までの振り返りについて

策定委員会開催内容（案）	
第1回 策定委員会 (H30.11.28)	■ 荒尾市における道の駅について ■ 南新地土地区画整理事業の概要について ■ 委員会及び事業概要について ■ 先進地事例紹介等について
第2回 策定委員会 (H31.1.28)	■ 道の駅あらお（仮称）整備の方向性の明確化 ■ 道の駅あらお（仮称）コンセプトの検討
第3回 策定委員会 (R元.7.24)	■ コンセプトの設定 ■ 施設機能の概要検討
第4回 策定委員会 (R元.9月下旬)	■ 施設機能の設定 ■ 基本構想素案に関する内容協議、意見交換
第5回 策定委員会 (R元.11月下旬)	■ 基本構想素案（第1～4回の検討内容の取りまとめ）
第6回 策定委員会 (R2.1月下旬)	■ 基本構想答申案（パブリックコメントの意見等を踏まえて） ■ 今後（基本計画等）の進め方

<第1回道の駅基本構想等策定委員会 議事内容>

平成30年11月28日 9時30分～ 荒尾市役所11号会議室

1. 荒尾市における道の駅について

①荒尾市の現状や課題

- 《人口》 ★人口減少と少子高齢化
⇒ 交流人口の増加から移住・定住への展開
- 《農業》 ★農家の減少 ★高齢化 ★農業生産額の低迷
⇒ 担い手の確保 ・農地利用の促進 ・新規作物の導入 ・農業生産の安定化
- 《漁業》 ★漁場の悪化 ★高齢化 ★経営体の減少
⇒ 環境保護 ・担い手の確保
- 《商業》 ★小売店舗数の減少
⇒ 各種商業施設が共存、共栄できる環境づくり
- 《観光》 ★観光資源が点在し、十分なつながりを持っていない(アピール不足)
★本市の魅力や情報を一元的にシティセールスできる場所がない
⇒ 体験型・滞在型などのニーズに合わせ、観光客と地域の人々との交流を図る

②新・第5次総合計画における道の駅の位置づけ

市の最上位計画である新・第5次総合計画の重点戦略において、【特産品販売・観光交流拠点の形成】として位置づけ

③道の駅の概要

国土交通省が定めた道の駅制度の目的や基本コンセプトについて

④地域ポテンシャルの整理

○豊富な地域資源

有明海・夕陽などの自然、荒尾梨・小代焼等の特産品、荒尾干潟・万田坑という世界基準、グリーンランドという日本有数の遊園地

○良好な立地条件

- ・福岡県と隣接。海を隔てて長崎県・佐賀県とも接している。
- ・福岡都市圏・熊本都市圏から1時間程度の距離。
- ・鉄道、港、高速道路など様々なアクセスツールがある。
- ・有明海沿岸道路の延伸及びインターチェンジ整備により、更に良好なアクセス環境となる。
⇒ これらの地域ポテンシャルを活かした道の駅整備とする。

⑤荒尾市における道の駅の整備目的

地域経済の活性化を主目的として道の駅を整備する。

⑥委員会の役割

基本構想(案)及び基本計画(案)の取りまとめ及び市長への答申

2. 南新地地区土地区画整理事業の概要について

①事業計画

事業の目的やスケジュールについて

②まちづくりコンセプト

『人・自然・新たな交流を育む ウェルネス拠点』

③土地利用方針及びイメージ

土地利用方針

- 有明海に面した豊かな自然環境を活かし、良質な居住拠点を形成
- 子どもからお年寄りまで、多様な世代が安心して過ごせる交流拠点を形成
- 交通アクセスを活かした、人々が集う観光・レジャーの発信拠点を形成

④ウェルネス拠点基本構想の策定に向けた調査概要

ウェルネス拠点基本構想の策定スケジュールについて

3. 委員会及び道の駅あらお(仮称)基本構想事業概要について

①委員会について

委員会の回数、スケジュール、議事内容について ⇒ 第2回会議で見直し

②道の駅あらお(仮称)基本構想策定業務 事業概要

基本構想策定に係る委託業務概要について確認(委託事業者より説明)

4. 全国道の駅 事例調査について

①道の駅の現状について

全国道の駅の沿革、タイプ、立地特性、機能概要等について

②全国道の駅の事例紹介

10施設の参考事例を提示(内、3事例説明)

<第2回道の駅基本構想等策定委員会 議事内容>

平成31年1月28日 13時30分～ 11号会議室

1. 第1回委員会の振り返り及び委員会スケジュールの見直しについて

第1回委員会の意見を踏まえて、委員会の回数、スケジュール、議事内容の見直しについて

2. 道の駅あらお(仮称)整備の方向性の明確化

①道の駅の現状及び特性

- 全国道の駅の現状の整理
全国道の駅の沿革、タイプ、立地特性、機能概要等について再確認
- 近隣道の駅及び県内道の駅の状況
ポジショニングマップを用いた差別化の考察など

②道の駅あらお(仮称)の整備目的(案)

- 第1回委員会の内容をブラッシュアップし、以下を整備目的として設定
- 地域経済の活性化
 - にぎわい・くつろぎの創出による市民生活の豊かさの向上
 - 防災拠点の形成による防災意識の向上

③道の駅の整備への期待(H29基礎調査データより)

- 市内関係団体からは、『地域外からの集客・消費の拡大』の期待が大きい。
- グリーンランドや万田坑来訪者のおよそ83%から整備された際の利用意向が示されている。

④荒尾市の特徴

本市の特徴とそれを踏まえた近隣道の駅の差別化を意識した整備上のポイントを整理

○有明海沿岸という立地特性

⇒ 有明海の景観、自然環境を最大限に活かした整備

○大規模施設との近接性

⇒ 地域住民やグリーンランド利用者など、地域内外の人々の集客・交流を促す施設整備

○知名度が高い特産品

⇒ 荒尾梨や有明海の水産物などを活かした、特徴的な特産品や特産品ブランドの創出

○有明海沿岸道路ICとの隣接

⇒ 有明海沿岸道路ICの直近に立地するメリット(アクセスの良さ)を活かした整備

⇒ 荒尾市のゲートウェイとして、地域情報の発信による周遊観光の促進

○周辺都市機能との連携

⇒ 周辺の土地利用と整合し、地元住民にも愛される施設整備 ※1回目委員会で提示した南新地地区の土地利用方針及びイメージを再掲

⑤SWOT分析による荒尾市の現状の整理

【強み】 豊富な地域資源(自然、特産品、世界基準、グリーンランド)、ウェルネス拠点

【弱み】 農水産物が少ない、人口減少、高齢化、市内周遊の仕掛不足等

【機会】 有明海沿岸道路延伸、道の駅に対するニーズの高さ・多様性、車利用によるついで立ち寄り誘発のしやすさ

【脅威】 競合施設の多さ、近年多発する災害への不安

⑥これまで整理した内容(①～⑤)に基づく、道の駅あらお(仮称)整備の方向性(案)

○特徴ある荒尾の地域資源を活かしたサービスにより、来訪者に満足度の高いおもてなしを提供する施設

地域資源を活用した商品やサービスを提供することにより、周辺市町居住者、既存観光客、有明海沿岸道路利用者（平日はビジネス・物流関係者など）の方に対する利便性を高め、交流人口の拡大を図る。

それにより、地域経済を活性化させるとともに、創出されるにぎわい・くつろぎ・安心の場の利用を通じて市民生活の豊かさの向上を図る。

○南新地地区に立地する新たな施設との機能的な連携により、複合的なサービスを提供する施設

「南新地土地地区画整理事業地区」に今後立地する施設との連携による相乗効果を生み出し、道の駅単独では実現しづらい新たな魅力付けを図る。

それにより、道の駅を含む立地施設(機能)で南新地地区を特徴づける「中心核」を形成し、エリア価値の向上により、競合施設（道の駅、大型直売所）との差別化を図る。

3. 道の駅あらお(仮称)コンセプトの検討

①コンセプト設定の目的

コンセプト＝「全体を貫く統一的な視点や考え方」を簡便な表現で示し、共通認識を持つために設定する。

②コンセプト設定に必要なこと

整備する施設の「本質」を言い当てる必要があり、以下のような切り口が考えられる。

- 地域の特色を盛り込み、地域ならではのコンセプト
- 地域(施設)の今後のあるべき姿を盛り込むコンセプト
- 地域の課題解決策を盛り込むコンセプト

③コンセプトの検討～設定までの進め方

道の駅あらお(仮称)整備の方向性に基づき、「荒尾らしさ」についていただいた意見を踏まえて次回（第3回）委員会で、事務局よりコンセプト（案）を提示する。

④コンセプトの考察

委員の方々に「荒尾らしさ」をイメージをしていただくために、以下の切り口を提示

○全国道の駅のコンセプト設定事例、その地域の「らしさ」等に取り組んだ施設事例 ○コンセプト設定イメージ

○本市の地域特性の再掲（地域資源、立地要件など） ○近隣及び県内道の駅のポジショニングマップの再掲

○ウェルネス拠点に対する要求（ウェルネス構想策定調査業務を一部抜粋）

各委員より「荒尾らしさ」を踏まえたコンセプトワード等について、以下のとおり様々な意見をいただいた。

※以下の内容については、どのような道の駅になってほしい、どのような機能がほしいといったご意見を抜粋し記載しています。その他にも様々なご意見やご質問をいただいておりますが、別添議事録要旨をご参照ください。

【主なご意見】

○競合の施設が多い中、ユニークコンテンツを絡めて展開していきたい。

○道の駅の固定観念を排除した議論が必要。地元の方々が何を望んでいるのかを議論した方がよい。市民に着目し、市民にも楽しんでもらえる、市民にも憩ってもらえるといった視点が欲しい。

○南新地地区ウェルネス拠点では、子ども、子育て世代が大きなキーワードとなっている。

○立地そのものがユニークである。

○これほど綺麗な夕陽を眺められる場所は他にない。

○夕陽には、四季折々の美しさがありリピーターに繋がる。（その他、夕陽に関する意見多数あり）

○地域資源は素晴らしい、そこにもう一つストーリーを付加することで新しいコンセプトや産業が生まれる可能性がある。

○ウェルネスというキーワードがあるため、健康を切り口としたい。

○以前は「海が見える競馬場」と言っていた。

○荒尾の特産品を使って、独自の「食」を印象付けたい。

○道の駅であるため食べることは大事。

○九州の真ん中であり、交通利便性は非常によい。

○リラックス、リフレッシュ、リターン(もう一度帰ってきたくなる)の3つのR。

○マジックを活かしてもらいたい。マジックキーもある。

○世界基準の万田坑・荒尾干潟の2つである。この2つを知っていただくことが荒尾らしさに繋がるのではないか。

○南新地地区は未来型の住宅地域を創造してほしい。

【機能について】

○インスタ映えするロケーション ○図書館 ○海水プール ○宿泊施設 ○クルージング、ディナークルーズ

○海水を利用した夕陽が見渡せる温泉施設 ○フィッシングパーク ○子どもたちが自由に遊べる芝生の公園

○天候に左右されない空間 ○様々な情報発信ができるような場所 ○避難所的な役割は重要